

いよいよ年度末を迎え、各学年共にま
とめの時期となりました。特に3年生
は、「十五の春」に向け、準備を進めて
いるところです。旅立ちの日は近い！

【立志の誓い！】

2月9日（金）は本年度最後の参観日でした。当日は、参観授業、懇談の他、家庭教育学級修了式も実施しました。

2年生は、「立志式」を実施しました。全校生徒、保護者、村長をはじめとする御来賓の前で、生徒一人一人が立志の誓いを述べた後、全員でこれからの生活への誓いの言葉を唱和しました。思うに、一番大切なことは、それぞれが立てた立志の誓いをいつまでも忘れず、これからの生活の様々な場面での自らの言動に反映させていくことですね。

式後には、諸塚出身で、現在、大阪府警に勤務されている辻（旧姓山本）瑤子さんに、「小さな村から、大きな挑戦」と題して、講話をいただきました。県外で活躍されている先輩の声は、全生徒に、大いなる刺激となりました。



【評価（通知表）がかわります！】

令和6年度から、評価の2期制を導入することにしました。生徒の学習や生活面を、できるだけ長いスパンで、適正に評価する目的で実施するもので、具体的には生徒の成績評価をこれまでの3学期制（3学期に分けて評価）から、2期制（前期・後期で評価）とします。そのため、通知表も年2回（10月中旬と3月末）に発行とします。評価の期間が変更するだけで、学期はこれまでの3学期と変わりませんし、長期休暇（春・夏・冬）も同じです。この変更は村内小中学校すべてにおいて実施されます。詳細は、2月28日付で配布した文書をご覧ください。



【これからの部活動を考える】

最近、部活動の在り方について、よく報道されています。「働き方改革」の観点から、地域移行が推進され、県内でも市町村によっては、すでにスタートしているところもあります。しかし、これにはマンパワーも必要ですし、部活動の教育的価値という観点から、なかなか進行しないのが現状です。郡内の学校については、これに加えて生徒数の減少に伴う部員確保が大きな課題です。他町村では、例えば「拠点校方式」により、学校ごとに部活動担当校を決めて、域内の中学生をそれぞれに集める事で、課題解決に対応しようとしています。本村においても対応を検討中です。

【良き生徒であるか？ その2】

大人も子どもも、性格に裏表がないことが一番です。しかし、やはりどこかで周りに気を遣い、それをカバーするために、のびのびと発散するところが別にあるってバランスがとれるものです。その場所が家なのか、学校や職場なのか、振り返ってみてはどうでしょうか。「人間は社会的な動物である。」という観点からすると、どちらが好ましいか、と言われればおのずと答えは出るような気がします。みなさんはどうですか？

